

高 建 第 4 0 3 号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長

高森町長 藤本正一



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の件について、
別紙のとおり回答します。

①高齢化社会で過疎化が進む地方においては、老人介護の福祉車輛や救急自動車等の乗り入れの為の、危機管理道路としての整備が「待った無し」の緊急課題となっている。
しかしながら、三位一体改革に伴い、地方財政は悲鳴を上げている中で、その財源確保が非常に厳しい状況である。本町においては、道路整備のほとんどを起債で賄っており、補助事業採択基準等を緩和して頂き、30%、40%でも補助が付くような、地方向けの交付金事業を創設して頂きたい。

②町道の総延長が255キロを有する本町は、道路舗装の維持修繕のオーバーレイに頭を痛めている。オーバーレイは起債事業にも乗らないので、全くの単独費で賄っているが、膨大な事業量を抱えているので、何らかの補助制度は無いものか。

③市街地以外の町道の法面の雑木が交通障害になっている。はなはだしい所はトンネル状になっており、冬季の山間部では太陽光線も遮断され、路面凍結による交通事故の要因にもなっている。全国の国・県道でも同じ現象があると思われる。支障木の除去には、クレーン車等の重機が必要で、経費も相当なものとなっている。そこで、道路特定財源の有効利用という事で、「法面支障木除去事業」を創設して頂きたい。

道路特定財源⇒

- ・一般財源化
- ・道路関連公益法人への支出の、徹底的な無駄の排除
- ・必要な道路は着実に整備する

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式②

熊本県阿蘇郡高森町

○現状

○課題

◎本町は合併構想から見放された状況に置かれているが、将来は阿蘇郡市全体の大合併構想を見据えている。そうなれば、地域の活性化のために、産業・経済・観光・文化の交流の為に基幹道路として、現阿蘇市と本町を最短で結ぶ「阿蘇縦貫道 日ノ尾峠線」の整備と主要地方道への昇格が最優先の課題である。この「日ノ尾峠線」が開通すれば、中九州の幹線道路である国道57号線と、山都町で計画が進んでいる九州横断自動車道「延岡線」を最短で結ぶ、広域的な道路網が整備される事になり、本町のみならず沿線地域の活性化と発展のために、無限の可能性と魅力を秘めた道路として期待が高まっている。町民悲願の道路であるので、是が非でも事業採択に向けて力添えを頂きたい。

◎電車等の交通の手段が無い地方では、車無しでは日常生活が維持されない。そのためにも、整備が必要な道路は数多く残っており、『大都市の道路事情と地方の道路事情は明らかに違う』という認識を持って、地方向けの交付金事業の創設をお願いする。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

熊本県阿蘇郡高森町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他